



〒111-8765 東京都台東区西浅草 3-17-1 浅草ビューホテル 2階
TEL. 03-3847-1111 FAX. 03-3847-0154 URL : http://www.asachu-rc.jp

2016 - 2017 年度テーマ

R.I. テーマ 「変化をもたらす」

R.I. 会長 イアン H.S. ライズリー
地区ガバナー 吉田 雅俊

クラブテーマ 「身も心も健康で、前に進もう」

クラブ会長 田村 順二



本日の卓話

上半期事業計画報告

2018年1月24日

第1525回例会

会長 田村 順二
幹事 浜中 清

今後の卓話予定

1/31 会員卓話「職業奉仕月間に因んで」 長沼一雄 会員

前々回 (1/10 1523 回例会) の記録

来訪者紹介

◆ゲスト 0名
◆ビジター 0名

出席報告

総会員数	休会	出席免除	出席	欠席	出席率	修正出席率
41名	0名	5名	37名	2名	94.87%	1521回例会修正 欠席4名・出席率88.89%

前回 (1/17 1524 回例会) の記録

来訪者紹介

◆ゲスト 0名
◆ビジター 3名

東京浅草 R.C. 坂 真太郎 様
東京江北 R.C. 鎌田 秀一 様
東京江北 R.C. 村上 正明 様

出席報告

総会員数	休会	出席免除	出席	欠席	出席率	修正出席率
41名	0名	5名	32名	7名	82.05%	1522回例会修正 欠席5名・出席率87.5%

会長報告 <田村会長>

・中学校の頃、歴史の好きだった私は両親にお願いしてHNK大河ドラマ“天と地”を1年間見せてもらいました。今も土曜日の午後

1時からの大河ドラマの再放送を毎週楽しんでおります。今年は歴史の中でも大好きな“幕末”なので大いに楽しみであります。

幹事報告 <浜中幹事>

・来週は、上期事業報告です。今週19日迄に報告書を浜中迄お送り下さい。

・本日例会終了後、理事・役員会がありますので、よろしくお願い致します。

委員会報告

<職業奉仕委員会 吉沼委員長>

- ・ 今月は職業奉仕月間ですので、ロータリーの源流よりロータリーの綱領及び倫理訓を抜粋したものを皆様のポストへ配布しました。御一読下さい。

<ゴルフ同好会 吉沼幹事>

- ・ 本年度のゴルフ同好会スケジュール表を配

布しました。日程の御調整をお願い致します。又、来週の例会より年会費を徴収致しますので、御協力をお願い致します。

<会計 内田委員長>

- ・ 本日ポストへ下半期会費納入のお願いを入れました。ロータリー財団、米山奨学寄附金を合わせ、今月末日迄に記載の口座へ着金しますようお願い申し上げます。

ニコニコボックス

<東京浅草 R.C. 坂 真太郎 様>

- ・ 今年も宜しくお願いします。第31回新春うたい謡 初めのご案内をさせていただきます。ご来場をお待ち致しております。

<田村会長、浜中幹事>

- ・ 原田さん、本日の卓話、何卒よろしく願います。

<山尾、太田、丸岡、後上、宮村、古谷、内田、上野、斎藤、上原、岩戸、藤掛、小林(雅)、中村、大塚、植木、松本、潮田、高木、渡辺>

- ・ 原田さん「本日の卓話」宜しくお願いいたします。

<斎藤、原田>

- ・ 今日1月17日は「防災とボランティアの日」です。万一の備えを確認しましょう！

<宮村、藤掛、松本>

- ・ お誕生日のお祝いをして戴き、ありがとうございました。

<丸岡、田村>

- ・ 100%出席の表彰をして戴きまして誠に有難うございました。

会員卓話

「私の読書感」



原 田 毅 会員

今回、イスラエルの歴史学者、ユヴァル・ノア・ハラリ著の「サピエンス全史」に大いに啓発され、同書を元に若干お話をさせていただきました。

サピエンス全史 上・下巻 河出書房新社 同書・下巻p 56～58 一部抜粋

1969年7月20日、人類は月に降り立った。これは歴史的偉業であるばかりでなく、進化上の偉業、更には宇宙の偉業でさえあった。云々

歴史の大半を通じて、人類は地上の生き物のおよそ99.99パーセント、すなわち微生物について何も知らなかった。それは、微生物が私たち無関係だったからではない。私たちの一人ひとりが何十億という単細胞生物を体内や体表に抱えており、それも単にただ乗りさせているわけではない。彼らは私達の最高の友であり、また最も致命的な敵でもある。私達が食べた物を消化し、消化管を掃除してくれる微生物もいれば、病気や感染症を引き起こすものもいる。それにもかかわらず、人間の目が始めて微生物を捉えたのは、ようやく1674年になってからだった。(顕微鏡の発見に依る) その後の300年間に、人類は膨大な数の微小な種を知るようになった。云々

だが、過去500年間で最も瞠目すべき決定的瞬間は、1945年7月16日午前5時29分45秒に訪れた。まさにその瞬間に、アメリカの科学者達がニューメキシコ州アラモゴードで世界初の原子爆弾を爆発させたのだ。それ以降、人類は歴史の行方を変えるだけでなく、それに終止符を打つ事さえできるようになったのだった。

アラモゴードや月へと続く歴史的過程は、科学革命として知られている。この革命の間に、人類は科学研究に資源を投入することで、途方もない新しい力の数々を獲得した。これが革命であるのには、理由がある。西暦1500年ごろまでは、世界中の人類は、医学や軍事、経済の分野で新たな能力を獲得する能力が自らにあるとは思えなかったのだ。政府や裕福な後援者が教育や学問に資金を割り当てはしたものの、その目的は一般に、新たな能力の獲得ではなく、既存の能力の維持だった。近代以前の典型的な支配者は、自分の支配を正当化して社会秩序を維持してもらうことを願って、聖職者や哲学者、詩人にお金を与えた。そして、彼らが新しい医薬品を発見したり、新しい武器を発明したり、経済成長を促したりすることは期待していなかった。

だが過去500年間に、人類は科学研究に投資する事で自らの能力を高められると、しだいに信じるようになった。これは根拠のないただの思い込みではなく、経験的に繰り返し実証された事実だった。そうした証拠が増えるほど、裕福な人々や政府が益々多くの資源を喜んで科学に投入した。そのような投資がなかったら、私達は決して月面を歩いたり、微生物に手を加えたり、原子を分裂させたり出来なかつただろう。たとえばアメリカ政府はこの数十年間に、何十億ドルもの資金を原子物理学に割り当ててきた。この分野から得られた知識のおかげで、原子力発電所の建設が可能になり、安価な電力がアメリカの諸産業に供給され、諸産業がアメリカ政府に税金を払い、政府はその税金の一部を使って、原子物理学の更なる研究に出資する。云々 (これらが果たして正しい選択なのかは思案のしどころである。卓話者考)